
Un Baked Lunch

かみなせ しゅら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

U n B a k e d L u n c h

【Nコード】

N 1 4 9 5 Z

【作者名】

かみなせ しゅら

【あらすじ】

The Naked Lunch（邦題：裸のランチ）を著された、聖バロース様、御慕い申し上げます。

恥は何。美德か。何、まだ知らない彼にそんな汚れが関係あるものか。それは美德ではなく、汚れ。それを纏った目でこっちを見るな。はいぼくは目を隠します。

"生硬";

：＊：- - -：＊：：＊：- - -：＊：：＊：- - -：＊：
＊：＊：- - -：＊：：＊：：＊：

その時、彼女はシーツの上に仰向けに眠りを込めて吐息を遠くに聞かす。

あまり笑顔は見えずに、時々、微笑。色が白くては、服、王妃様みたい。

寝そべった彼女のつちふまずは彼女にとって右に傾いて、側臥、彼女は膝を折り、脚を抱え。

僕は温もりのシーツを嘗める。

そして彼女のつちふまずは僕にとって右に傾いて、遠回しのキス。

：＊：- - -：＊：：＊：- - -：＊：：＊：- - -：＊：
＊：＊：- - -：＊：：＊：：＊：

"raw";

?

????????????????????
????????????????????

#

学校。教室と階段の間、非常口へと続く、廊下から少し、奥まった場所。無造作に置かれた書架の影、彼女の唇は頬に感触を残して。

「どうして唇じゃないの」「唇のほうがいいの?、そう、それは、また、今度ね」

彼女には他に付き合っている人がいて。彼は僕の友達で、彼もその場所に行きます。輪郭のない三角。

影から出てきたところで、彼女は僕に尋ねました
「私の他に好きな人いる?」「いるよ」「だれ?」「…さん」「私とどっちが好き?」「あなたがいちばん」「そう。」

#

学校。背が少し高くて痩せてちよつと肌は焼けてる。背は低くて痩せてる。なぜ。

「ここ、触ってみて」「え?」

何色のスカート、黒のタイツ。濡れてる。

「何だと思う?」「おしっこよ」

「あの子も、そう」 淡い青のジーンズ。椅子に置かれたクッションの。

僕の手を持つて？

二人の女の子は笑顔で何かを話す。金縛り。

1. ☐ 2. ☐ 3. ☐ 4. ☐ 5. ☐ 6. ☐ 7. ☐ 8. ☐ 9. ☐ 10. ☐ 11. ☐ 12. ☐ 13. ☐ 14. ☐ 15. ☐ 16. ☐ 17. ☐ 18. ☐ 19. ☐ 20. ☐ 21. ☐ 22. ☐ 23. ☐ 24. ☐ 25. ☐ 26. ☐ 27. ☐ 28. ☐ 29. ☐ 30. ☐ 31. ☐ 32. ☐ 33. ☐ 34. ☐ 35. ☐ 36. ☐ 37. ☐ 38. ☐ 39. ☐ 40. ☐ 41. ☐ 42. ☐ 43. ☐ 44. ☐ 45. ☐ 46. ☐ 47. ☐ 48. ☐ 49. ☐ 50. ☐ 51. ☐ 52. ☐ 53. ☐ 54. ☐ 55. ☐ 56. ☐ 57. ☐ 58. ☐ 59. ☐ 60. ☐ 61. ☐ 62. ☐ 63. ☐ 64. ☐ 65. ☐ 66. ☐ 67. ☐ 68. ☐ 69. ☐ 70. ☐ 71. ☐ 72. ☐ 73. ☐ 74. ☐ 75. ☐ 76. ☐ 77. ☐ 78. ☐ 79. ☐ 80. ☐ 81. ☐ 82. ☐ 83. ☐ 84. ☐ 85. ☐ 86. ☐ 87. ☐ 88. ☐ 89. ☐ 90. ☐ 91. ☐ 92. ☐ 93. ☐ 94. ☐ 95. ☐ 96. ☐ 97. ☐ 98. ☐ 99. ☐ 100. ☐

"rare";

?

* : * : - - - : * : * : - - - : * : * : - - - :
* : * : - - - : * : * : - - - : * : * : - - - :

#

「たくましくなつたわ」 時々、彼女はこう言いました。
ただ全てが綺麗な容姿。例えば神話。肌は眩しく白。極端に。笑
顔。

彼女は毎朝、声をかけました、だから、恥ずかしくて、止めてほ
しいと僕は言いました。

「どうして？嫌なの？」「嬉しくないの？」「そんなこと。」
指が細くて白かった。、、、なに？

#

「どっちがかわいい？」

「え？」

二人は顔、頬を指で突く「柔らかい」
そんな。ぬいぐるみ。人は?????

#

眼鏡をかけて、少し焼けてる肌。物静か。微笑。好き。名前の漢

字、間違えて、それ違う、と怒られて、それだけ怖かった。

この人だけ、忘れてしまったのに気づく。

: *
 :
 -
 -
 -
 :
 *
 :
 :
 *
 :
 -
 -
 -
 -
 :
 *
 :
 :
 *
 :
 -
 -
 -

-
 :
 *
 :
 :
 :
 *
 :
 :
 -
 -
 -
 :
 -
 :
 :
 *
 :
 :
 :
 *
 :
 :

" baked? ";

?

#

白痴の人。

「ーちゃんの目！輝いてる！」

ある日。

僕はミンナと、同じに、彼女を、嘲笑って

「ーちゃんまで！酷い！」

○

僕は、とても悪い。悪い。

#

彼女。
「実は、好き」

「
い
い
え。
」
僕。

言っ
てい
いっ
てい
や！

僕。
「好き」

「え？」

某女。

、 あ違いました今今気がつきましたからどうか忘れなさい自分を見失ってて)

* : / : / : / : *	 : / : / : / : / : *	* : / : / : / : / : *
* : / : / : / : /*	* : / : / : / : /*	* : / : / : / : /*
* : / : / : / : /*	* : / : / : / : /*	* : / : / : / : /*
* :	* :	* :

夢知。

“The Naked Lunch”

無視。

“burnt?”

未知。

“baking”

[illegible]

-
-
-
-
-
-

·
/
·
/
·
/
·
·
*

．．．．．（後書き）

？

すみません。何のことはない幼稚園からなんて！笑う、Un-Baked-Lunch 年代順です。最近のが無いのは、つまり。鮮度。文字数。恥さらし。ため次第に衰えること。だんだん、しだいに、明確化は怖いななな、と思うこと、本当はそんなこと思っていないから、嘘です思ってますごまかそうと迷路に逃避を謀る、明確はすごくこわい、はいぼくはしたのです未知に迷って君から逃げる。最初から敗北してたのですよ！最初から負けてたのです。そういう、卑屈なので、だんだん、だんだん、だんだん、嫌い嫌い汚れに18年間自らに汚染され続けて恥ずかしくて恥ずかしくてこの目を棄てたい！！棄てたい！！汚れ！

恥を知れ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1495z/>

Un Baked Lunch

2011年12月5日10時49分発行